



「連携による教育」 ～Aさんのことを通して～

本分教室は、病院内に設置されている学校です。日常的に医療的ケアがあるため、病棟との情報共有等は、安心・安全かつ、豊かな教育活動を行う上で欠かせない連携です。

小学部6年生のAさんは、人工呼吸器を付けているため、基本的にはベッドや車椅子上で仰臥位（仰向け）の姿勢により学習しています。学校では、いつか座位をとってお尻で踏みしめたり、正面から物を見たりする感覚を味わってほしいな、と願っていました。ある日、病棟でのリハビリの際に座位をとっている、という情報をいただき、その様子を参観させてもらう機会を得ました。座位をとった際、Aさんの表情が一変したように見え、とても驚きました。病棟の協力により、新たな一面（実態）を知ることができました。

また、少しずつ活動の場を広げていきたいという願いについても相談したところ、病棟スタッフ同行の基で、外気浴を行えることになりました。

Aさんは、今年9月に病棟内で修学旅行に相当する体験活動を行う予定ですが、病棟の協力により、当初計画よりも少し大がかりな活動を準備できそうです。

子どもたちの豊かな生活や学習のため、教育と医療の相互理解に基づく連携をさらに深めていきたいと考えています。



【リハビリの様子を参観しました】



【外気浴に出かけました】